

建設企業常任委員会行政視察概要

令和元年7月24日（水）

於 豊島区議会 第1委員会室

午前9時55分～午前11時37分

1 調査概要

「小規模公園活用プロジェクトについて」

東京都豊島区都市整備部公園緑地課課長

同 係長

東京都豊島区は大規模公園が少なく、1,000㎡未満の小規模公園が全体の7割を占める。区民一人あたりの公園面積は東京23区の中で最も狭い一方で、区的面積あたりの公園「数」では東京23区でトップクラスである。

近年の都心回帰によって、人口が急増している豊島区では、待機児童解消等の施策が実を結び、待機児童数が2年連続でゼロになる一方で、区民アンケートの結果から子育て環境への不満や地域への愛着不足が明らかになった。

そのため、区内全域に点在する既存の小規模公園を新しいコミュニティの場として最大限活用するべく、2017年から取り組みを開始した。株式会社コトラボとの協業により、実際に公園に出向いて遊具、ファニチャー（ベンチなどの公園施設）などをチェックした。①地域課題の有無（新旧住民のコミュニティ）、②子どもの利用状況・園庭利用状況、③近隣施設（保育所・小学校）、④近隣施設（区民ひろば等地域施設）、⑤区画整理・都市計画道路の整備状況、⑥地域の担い手、⑦近隣施設（スーパー・コンビニ）、⑧商店街等周辺店舗、⑨花壇・土・植栽の状況、⑩ベンチの設置状況、⑪遊具の設置状況（有無及び種類）、⑫土地面積、⑬トイレの状態という13項目を分析・点数化し、評価を行った。



そして、パブリックトイレプロジェクトをはじめ、近隣の商店・大学生・住民と一緒に公園のあり方について考える井戸端会議を実施している。2017年11月から実施しているモデル事業では、地域住民はじめ近隣の商店や株式会社良品計画と協業し、公園内でのマーケット開催などの活用が行われている。

2 主な質疑応答

問 プロジェクトにかかる予算について

答 令和元年度は、公園トイレ改修に4億7,151万円、モデル公園での取り組みに3,003万円となっている。

問 小規模公園活用プロジェクトの実施にあたり、特に意識したことはあるか。

答 公園の利活用のテーマとしては、「禁止ではなく、できることを伝える」を意識した。公園の特性と立地を踏まえ、地域のための場になるように見直し、今あるものを活かし、できることを見出し、活用の実験と実践を繰り返している。

問 モデル公園の選定方法について

答 モデル公園の選定にあたり、地域の課題が明確となっている場所を選定した。13項目を点数化したほか、濃密な地域コミュニティが維持されているかについても実際に聞き取りを行った。

問 パブリックトイレプロジェクトとは、どのようなものか。

答 地元の若手アーティストとのコラボレーションや地域の子供から高齢者まで幅広い住民参加による地域特性を活かしたアートトイレに取り組んでいる。トイレの外観や内観にラッピング装飾を施すなど、従来の「公衆便所」のイメージを刷新する明るい公共トイレの実現を目指している。



問 トイレは、LGBT（性的少数者）に配慮したものになっているか。

答 男女どちらでも使用できる多機能トイレを整備している。

以上